



2023年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年11月14日

上場会社名 株式会社壽屋 上場取引所 東
 コード番号 7809 URL https://company.kotobukiya.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 一行
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 村岡 幸広 (TEL) 042-522-9810
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第1四半期の業績(2022年7月1日~2022年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第1四半期	4,771	39.7	926	48.2	869	40.1	600	39.2
2022年6月期第1四半期	3,415	84.2	625	666.5	620	594.4	431	621.1

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第1四半期	228.58	224.60
2022年6月期第1四半期	165.56	162.07

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第1四半期	12,179	5,191	42.6
2022年6月期	10,620	4,780	45.0

(参考) 自己資本 2023年6月期第1四半期 5,191百万円 2022年6月期 4,780百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	70.00	70.00
2023年6月期	—				
2023年6月期(予想)		0.00	—	70.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年6月期の業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,000	11.9	1,800	△23.0	1,760	△24.5	1,222	△24.6	467.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年6月期1Q	2,800,200株	2022年6月期	2,797,800株
② 期末自己株式数	2023年6月期1Q	171,067株	2022年6月期	171,067株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年6月期1Q	2,628,324株	2022年6月期1Q	2,607,233株

(注) 期末自己株式には、株式会社日本カストディ銀行 (信託E口) が保有する当社株式 (2023年6月期1Q 101,600株、2022年6月期 101,600株) が含まれております。また、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数には、株式会社日本カストディ銀行 (信託E口) が保有する当社株式 (2023年6月期1Q 101,600株、2022年6月期1Q 101,600株) が含まれております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大による経済活動の停滞に加え、ロシア・ウクライナ情勢に起因する国内外の経済活動への影響や急激な円安の進行などにより、先行きが非常に不透明な状況となっております。

このような環境の下、当社は世界各国の顧客ニーズに合わせた魅力ある新製品開発を行うと共に、自社IP (Intellectual Property：キャラクターなどの知的財産) による製品開発に特に注力してまいりました。

卸売販売につきましては、国内市場では、アニメ『無職転生～異世界行ったら本気だす～』より2022年8月に「ロキシー・ミグルディア」を発売し、フィギュア製品売上に貢献しました。自社IP製品においても『メガミデバイス』より「Chaos & Pretty アリス」を発売し、プラモデル製品の売上は好調な推移をみせました。また、プラモデル関連製品である『モデリング・サポート・グッズ』等も堅調な推移をみせ、業績を牽引いたしました。

海外の北米地域におきましては、ロサンゼルスにて開催された「アニメエキスポ2022」に出展、次にサンディエゴにて開催された「サンディエゴ・コミックコンベンション2022」に出展し、プロモーション活動を積極的に行いました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響が依然続くものの、フィギュア製品、プラモデル製品ともに売上は好調な推移をみせました。

アジア地域におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も販売活動については限定的にとどまり、プロモーション活動を行うと共に、販売チャネル拡大を推進した結果、プラモデル製品の売上が堅調な結果となりました。また、『メガミデバイス』シリーズを中心に『フレームアームズ・ガール』などの自社IPプラモデル製品も堅調な結果となりました。

直営店舗による小売販売につきましては、店舗キャンペーンの実施や『にじさんじ』関連商品が好調に推移し、売上は回復基調にあります。店舗運営におきましては、引き続き新型コロナウイルス感染拡大予防のため、定期的な換気や消毒、レジ前に飛散防止シートの設置などを行い、衛生管理やスタッフの健康管理を徹底いたしました。ECサイトによる通信販売におきましては、他社との差別化として直営店舗限定商品や特典の開発を積極的に推進したことにより売上は好調に推移しました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は4,771,661千円(前年同期比39.7%増)、営業利益は926,820千円(前年同期比48.2%増)、経常利益は869,868千円(前年同期比40.1%増)、四半期純利益は600,772千円(前年同期比39.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末の総資産は12,179,144千円となり、前事業年度末に比べ1,558,587千円(14.7%)の増加となりました。

(流動資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は8,438,563千円で、前事業年度末に比べ1,439,717千円(20.6%)増加しております。これは現金及び預金の増加808,284千円、商品及び製品の増加362,211千円があったことが主な要因であります。

(固定資産)

当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は3,740,580千円で、前事業年度末に比べ118,870千円(3.3%)増加しております。これはその他に含まれる建設仮勘定の増加95,599千円が主な要因であります。

(流動負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は3,638,757千円で、前事業年度末に比べ1,124,126千円(44.7%)増加しております。これは短期借入金の増加1,250,000千円が主な要因であります。

(固定負債)

当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は3,348,536千円で、前事業年度末に比べ23,310千円(0.7%)増加しております。これは長期借入金の増加15,784千円が主な要因であります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は5,191,850千円で、前事業年度末に比べ411,150千円(8.6%)増加しております。これは配当金の支払いによる減少190,983千円の計上があった一方で、四半期純利益600,772千円を計上したことにより利益剰余金が増加したことが主な要因であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2022年8月12日の決算短信で公表いたしました業績予想に変更ありません。なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年6月30日)	当第1四半期会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,963,654	2,771,939
売掛金	1,709,497	1,844,689
商品及び製品	1,074,985	1,437,196
仕掛品	571,024	547,908
貯蔵品	4,899	4,964
前渡金	1,185,866	1,288,830
前払費用	470,319	536,157
その他	18,598	6,877
流動資産合計	6,998,846	8,438,563
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,705,251	1,681,339
土地	802,784	802,784
その他(純額)	481,577	603,945
有形固定資産合計	2,989,613	3,088,069
無形固定資産	64,371	75,272
投資その他の資産	567,725	577,238
固定資産合計	3,621,710	3,740,580
資産合計	10,620,556	12,179,144
負債の部		
流動負債		
買掛金	511,229	657,692
短期借入金	100,000	1,350,000
1年内返済予定の長期借入金	489,797	536,962
未払法人税等	626,893	288,260
賞与引当金	61,003	125,757
その他	725,708	680,085
流動負債合計	2,514,631	3,638,757
固定負債		
長期借入金	2,880,624	2,896,408
株式給付引当金	13,450	16,057
退職給付引当金	141,915	143,790
役員退職慰労引当金	223,275	226,275
資産除去債務	20,773	20,817
その他	45,186	45,186
固定負債合計	3,325,225	3,348,536
負債合計	5,839,857	6,987,293
純資産の部		
株主資本		
資本金	454,576	455,257
資本剰余金	417,076	417,757
利益剰余金	4,216,587	4,626,376
自己株式	△307,540	△307,540
株主資本合計	4,780,699	5,191,850
純資産合計	4,780,699	5,191,850
負債純資産合計	10,620,556	12,179,144

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)
売上高	3,415,980	4,771,661
売上原価	2,038,543	2,974,774
売上総利益	1,377,437	1,796,886
販売費及び一般管理費	751,983	870,066
営業利益	625,454	926,820
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	321	330
受取手数料	39	30
為替差益	1,629	—
助成金収入	—	205
保険解約返戻金	1,023	—
その他	451	342
営業外収益合計	3,465	909
営業外費用		
支払利息	7,737	7,587
為替差損	—	50,066
その他	214	207
営業外費用合計	7,951	57,861
経常利益	620,968	869,868
税引前四半期純利益	620,968	869,868
法人税、住民税及び事業税	209,294	272,987
法人税等調整額	△19,977	△3,891
法人税等合計	189,317	269,095
四半期純利益	431,651	600,772

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

当社の報告セグメントはホビー関連品製造販売事業のみの単一であるため、記載を省略しております。